

第4回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成29年3月28日（火） 10:00～12:30	場 所	東海村役場 議会棟2階201・202委員会室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，川亦委員，坪委員，安尾委員，荒木田委員，原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，鈴木（さ）委員，鈴木（千）委員 事務局／村長公室 企画経営課 関田課長，高橋課長補佐，秋山係長，照沼主事 建設農政部 都市整備課 庄司課長，大友課長補佐，横山係長，照沼主事，大内技師 説明者／茨城大学人文学部 常井氏，健康増進課 千葉崇課長補佐，まちづくり推進課 鈴木氏，環境政策課 高橋課長補佐，石井係長，生涯学習課 千葉道課長補佐，深見室長 欠 席／久賀委員，川崎（道）委員 <div style="text-align: right;">（◎：委員長，○：副委員長）</div>		

○当日の活動・協議内容

1 開会（企画経営課 関田課長）

2 小原委員長あいさつ

前回の委員会までに大きな柱が2つ決まりました。これまでは、コンセプトを決めるために個々の有形・無形の資源をグループワークで出し合いましたが、本日から逆の作業となります。決定したコンセプトに従い、新旧様々な意味合いを持つ資源を、2つのコンセプトに沿った意義付けをして、全体として地区をどのようにしていくか、絵を描き始めていただきたいと思います。東海村、また、村を取り巻く県や国では、様々なことが同時進行で動いています。本日も様々な説明があるように、本委員会に関係する複数の事業等も同時進行しています。また、地方創生の枠組みの中で、数年以内に行われる村や県の様々な事業が動いているところかと思えます。本日は、今動いている事業に対する説明を聞いていただくこととなりますが、頭の中で、前回のコンセプトと相対的に考えていただきながら、全体としてつながりをもたせていただきたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事（進行：小原委員長）

議題（1）村松周辺における東海村の取組みについて

※「●」…説明部分 「■」…質疑・意見部分

①「学生から見た東海村」について（茨城大学人文学部／常井氏※小原委員長ゼミ生）

【説明】

- “住民参加型まちづくり”をテーマとした卒業論文を執筆するにあたって、東海村のまちづくりを取り上げた。その過程で「東海村のイメージ」について学生を対象にアンケートを実施したことから、アンケートから見えてくる「学生から見た東海村」について発表する。
- 水戸市等の県央地域や、日立市等の県北地域に住んでいても、東海村を訪れたことがな

い人が大多数だということが分かった。また、来たことがある人も、ない人も東海村に対し、「原発」のイメージを持っている。

- ほとんど東海村を訪れたことがないため、東海村のイメージとして、「村」という印象が先立ち、今後、東海村に期待することとして、村＝田舎＝自然・景観が多かったのではないかと考えられる。
- 今後、東海村に期待するものとして、「イベント・祭」が2番目に多かったが、村を知らない・訪れたことがない人については、イベント等を実施しているかどうかも分からないので、今後に期待したいという意味が込められているかと思われる。

(以下、小原委員長補足)

- 私はこれまで全国的に地域研究をしてきたが、東海村は、原子力発電所が立地する地域としては、それほどイメージが悪くない。
- 多くの自治体では、来訪の有無によりイメージが大きく変わってくところが多いが、東海村は訪れたことがある人もない人もイメージが変わらないという結果となった。これも東海村の特徴の一つかと思う。推察だが、短時間の滞在だった人が多かったのかもしれない。

【質疑】

- 資料の調査方法に、「大学授業開始時に配布→授業終了時に回収」とあるが、どのような授業で調査したのか。アンケートを記入する時間は設けられたのか。(坏委員)
→私(小原委員長)の授業で、3年生以上が対象の観光地理学だ。20分程度アンケートを記入する時間を設けた。(小原委員長)
- 他地域についても、地域研究をされているということだったが、学生は何を魅力に感じるのだろうか。お店があるところなど、特徴があれば教えていただきたい。(坏委員)
→学生のため、アクセスが良いところや有名な観光地、茨城県で言えば「海浜公園」や「袋田の滝」等、ネームバリューがあるようなところに行きがちだ。(常井氏)
- 今回の調査では、学生の車の保有率について調べただろうか。車の保有率により、結果が変わるところがあるかと思う。(原委員)
→そちらについては、残念ながら調査していない。(常井氏)

②「ヘルスロード」について(健康増進課/千葉崇課長補佐)

【説明】

- 村では、「東海村健康づくり推進計画」に基づき、「自分の健康は自分で守る」をモットーに行政・地域・住民の協働による健康づくりを推進している。ヘルスロードについては、平成27年度から3ヶ年計画で「すこやかウォーキング推進事業」を開始し、活用している。
- ヘルスロードは、市町村で申請をして、県が認定することとなっている。県としては、各市町村のヘルスロードをつなげて、大きなヘルスロードとする構想があるようだ。
- ヘルスロードの特色は、安全に歩けることだ。具体的には、「歩道の7割が整備されている」や「コース案内・休憩所・トイレがある」「車椅子がすれ違える」等が挙げられる。
- 「すこやかウォーキング推進事業」の中では、マップや看板整備、ウォーキング事業の実施を平成29年度まで推進する予定だ。

- 平成28年度には、村内3コースが新たに追加され、東海村には全10コースがある。県内では309コースがヘルスロードとして認定されている。
- 村松地区については、「阿漕ヶ浦・虚空蔵堂コース」、「真崎いちょうとはなみずきの並木通りコース」、「押延・天神山水と緑の里山コース」がある。地域活性化にぜひ、ご活用いただきたい。
- 平成29年度については、コース案内表示用の看板が未設置のコース3か所に新たに看板を設置するほか、村内全てのヘルスロードのコースを総括したコースマップを作成する予定だ。

【質疑】

- 「真崎いちょうとはなみずきの並木通りコース」のマップの右下に真崎古墳群があり、現在、ボランティアで周辺の整備をしている。ヘルスロードについて、新たなコースの追加や、道順の変更は認められるのか。(坪委員)
 - 追加や変更は可能だ。「舟石川まほろばの里と近隣公園コース」は当初、笠松方面へ行って帰るコースだったが、見所を考慮して、新しくできた舟石川近隣公園まで回遊できるよう、コースの変更をしている。(千葉崇課長補佐)
- 特色に「車椅子がすれ違うことができる」とあったが、山道のようなところでも適用されるのか。(坪委員)
 - そちらについては、ある程度は守りたいが、理念的なところでもある。実際に、「押延・天神山水と緑の里山コース」にはあぜ道のようなところもあり、現実的に車椅子で巡るのは難しい。そういったところについては、ショートコースも含め、途中まで健常者と一緒に歩けるような対応も可能かと思う。(千葉崇課長補佐)
- 説明の中で、道の途中に案内看板を設置するとあった。本委員会の中で、看板等にスマホをかざすと情報を取得できるハード整備をしたらどうかとの意見があったのだが、そういったものを設置する可能性はあるのか。(小原委員長)
 - 看板については、村内コミセンを網羅するよう、平成28年度には3箇所を設置し、平成29年度にはさらに3箇所を設置する予定だ。検討の段階ではスマホの案も出ていたが、主力の参加者層である60代から70代のスマホの普及率を考慮し、今回は見送りとなった。ただ、今後に向けて検討することは可能かと思う。(千葉崇課長補佐)
- そもそも、なぜ、このようなことを行うのか。(荒木田委員)
 - 「第1次・第2次健康づくり推進計画」を作る中で、どういった形ならば、(健康に関心がない方を含め)みなさんに健康づくりに参加してもらえるかと考えたとき、ウォーキングは比較的費用もかからず、近場で実践できるため、取り組みやすい健康づくりになると考えた。そのため、村としてウォーキングを推進することとなり、茨城県が進めているヘルスロードの構想と合致したので、こういった形で進めている。(千葉崇課長補佐)
- たとえば、多くの水戸市民は千波湖に歩きに行く。村内に複数コースを設置して、整備しきれぬのか。人は来るのか。(荒木田委員)
 - 千波湖は有名だが、ウォーキング参加者は、アスファルトで舗装された街中ではなく、自然・文化・歴史に触れ合えるコースを好む傾向がある。この3年間については、真崎古墳群や石神城跡等、東海村の自然や文化に触れてもらえるようなコース整備を推進し

てきた。様々な形でウォーキングに参加する方がいるかと思う。村としては、健康づくりに参加するきっかけの間口を広げたい。健康に関心がない方でも、別の目的（自然との触れ合い、文化財等）で参加し、気が付いたらウォーキングが習慣化していたというような形でウォーキング人口を増やしていきたい。（千葉崇課長補佐）

■スタート時及び現在のすこやかウォーキング参加人数を教えてください。（川亦委員）

→平成18年度からモデル的に実施しているが、定例で年間10回開催となったのが、平成20年度からとなる。雨天で中止となる場合もあるが、平均して年間8回から10回実施している。初年度の参加者は460名だったが、震災の年(平成23年度)は200名を切って、その後、200名から300名で推移していた。平成26年度以降、エンジョイサマースクールの取組みの一つに組み込んだところ、500名から600名に参加してもらっている。親子での参加が多く、非常に好評なので、今後も続けたい。1回あたりは平均して80名ほどに参加いただいている。（千葉崇課長補佐）

■3ヶ年計画で平成29年度で事業を終了するということがあったが、今後も継続する可能性はあるのか。また、阿漕ヶ浦周辺を再整備する予定かと思うが、そちらを巡るコースを設置する予定はあるのか。（鈴木さ委員）

→健康増進課としては（平成29年度で）一旦事業を終える。ただ、仰るとおり、阿漕ヶ浦公園の再整備計画等もあるので、関係各課と調整しながら、新たなヘルスロード認定についても検討を続けたい。また、これまでは、東海村健康づくり推進計画の推進委員を主体とした委員会の委員に実際に歩いていただいて事業を進めてきたが、今後は、地域住民のみなさんからアイデアの提案やコースの選定をしていただき、地区の活性化事業のひとつの成果物として、ヘルスロードを活用していただき、整備を進めたいと考えている。

■今は健康ブームなので、たとえばそういったことに関心のある著名人にオーソライズしてもらって、大きなイベントを開催し、茨城のメインロードとなればおもしろいと感じた。（小原委員長）

■ウォーキングもいいが、今は、ランニングやサイクリングも流行っている。そこのリンクについては検討していないのか。（坪委員）

→ウォーキングだけでは物足りないとの意見もいただいている。団塊の世代の男性の参画も増えているため、平成28年の2月にスロージョギングの講座を実施した。サイクリングについては、自転車は車道を通ることとなり、歩道と扱いが異なる。今のところ、ヘルスロードとは分けて考えていきたい。（千葉崇課長補佐）

③東海村観光協会の取組みについて（まちづくり推進課／鈴木氏）

【説明】

- 村松周辺では、観光協会では大きく4つのイベントを行っている。「東海さくらまつり」「大空マルシェ」「大神宮・村松山虚空蔵堂紅葉ライトアップ」「観光ボランティアガイド」だ。
- 「さくらまつり」は（平成29年は）約2週間開催している。夜桜のライトアップや園内を行灯とぼんぼりで飾り付けする。（平成29年は）村内外から9店舗が出店し、土日

は音楽・ダンスの14団体がステージを披露する。

- 観光協会からは「大空BAR」というBARを出すので、夜桜を見ながらJAZZ演奏を聴くことができる。
- 大空マルシェは、生憎、平成28年の開催時は荒天だったが5,000人が訪れた。別の年で、晴天での開催時は1万人訪れた。
- 大空マルシェでは、約100店舗の店が出店する。ステージでは音楽アーティストによる演奏がある。平成28年は、寺ヨガ、写仏、着物の着付けショー、水戸第二高校の書道部を呼んで、書道パフォーマンスを行ったところ、大変好評だった。
- 大空マルシェは、30代から40代の女性をターゲットとし、家族で訪れてもらおうとしている。一度訪れてもらい、大神宮や虚空蔵堂の良さを知ってもらい、リピーターになってもらうのが狙いだ。
- 大神宮・虚空蔵堂ライトアップ事業については、寒い時期（平成28年は、11月下旬から12月上旬）に実施したが、2週間でおおよそ2,000人の来場者があった。
- 日没から20時までライトアップを行った。参道や境内に飾られた540個の紙灯籠は、村内の小学生が自由に絵を切り抜いたものだ。自分の描いた灯籠を見つけることでライトアップを楽しみ、郷土愛を深めてもらおうと試みた。
- ライトアップ事業については、地域の方に多大なるご協力をいただきいた。23名の地域の方に毎日、灯籠を1機ずつ点灯・消灯していただいた。
- 観光ボランティアガイドは「とうかい十二景のしおり」最後の頁を参照いただきたい。これまでの平成24年から平成29年2月末の累計で、案内者数は1万4,000人だ。現在、17名のボランティアの方が所属している。また、平成28年度茨城県観光事業功労者として表彰された。
- ボランティアガイドが企画した、平成29年3月末に予定されている、とうかい十二景を巡るバスツアーには、77名の方が参加する予定だ。

【質疑】

- 東海村では、外国人観光客への対応は何か取り組んでいるのか。（小原委員長）
→観光ボランティアガイドの方が、英文でマニュアルを作成し、歴史資源等について、英語で説明できるようにしている。（鈴木氏）
- 第1回委員会でも提案したのだが、案内板等にスマホをかざすと、多言語で説明が聞けるサービスについては検討しているのか。（坪委員）
→現在のところ、具体的には検討していない。（鈴木氏）
- これからは、見える資源、見えない資源を活用することが重要だと考えている。村への提案だが、そういったものがまとまってきたら、それらを紹介するツアーのような取り組みを行ってほしい。個々の資源のつながりをみなさんにアピールできれば良いかと思う。（坪委員）
- 県の観光担当によると、台湾の観光客の間ではパワースポット巡りや歴史的資源が注目されているようだ。（小原委員長）
- イベント時の駐車場については、こういった問題が発生しているのか。（川亦委員）
→村松地区には駐車場が点在しているが、イベント開催時、駐車場がどこかわからないという問合せが多い。観光協会としては、ポスターやホームページでの告知に力を入れ

ている。(鈴木氏)

■さくらまつりのときには、お酒が飲める大空BARを開催しているとのことだが、臨時バスは出ていないのか。バスがあれば村外の方も来やすいかと思う。(鈴木さ委員)

→出ていない。(鈴木氏)

■大空マルシェは30代から40代女性をターゲットとしていると説明にあった。大神宮・虚空蔵堂ライトアップは小学生の作品を飾っているとのことだが、その際、たとえば十三詣り等のリーフレットの配布は行っているのだろうか。チラシ配布についても、ターゲットを絞って行った方が効果的ではないか。(鈴木さ委員)

→ライトアップの際の重点的な配布はしていない。ただ、村としてPRすべきものについては、駅のラック等にチラシを置いている。(鈴木氏)

→ターゲットを絞って読みやすいパンフレットを作成・配布した方が効果的かと思う。十三詣りのような、人生の行事と絡めて特定の人に向けたPRをすると、「また来よう」と感じるのではないだろうか。(鈴木さ委員)

→初詣なども、あれだけの人が来るのに、どこかで見たことがあるような県の観光パンフレットしか置いてないので、もったいない。(川亦委員)

→外国人向けの英語のパンフレットもあるといい。(鈴木さ委員)

■学生の発表の中でも、“東海村でイベントが実施されているかどうか”についてわからないとあったが、チラシ等については、どの辺りに設置しているのか。東海村にそもそも来ない人には、駅にチラシが置いてあっても効果が薄いだろう。(川亦委員)

→ひたちなか市や日立市の大型商業施設や村内の医療機関等には、イベントポスターを送付している。水戸市には配布できていない。(鈴木氏)

→例えば、大空マルシェのチラシであれば、水戸市等でも(同様の)イベントが行われている。そういったところにチラシを配布すれば効果的ではないだろうか。(川亦委員)

→海浜公園やアクアワールド等のアミューズメント施設には送っているのだが、ご意見があったところについてもPRの強化をしたい。(鈴木氏)

④真崎城跡(天神山) 保全イメージについて(環境政策課/高橋課長補佐, 石井係長)

【説明】

●平成26年度から27年度にかけて、宿区自治会の方々と共に天神山のみどりの保全のためのワークショップを実施し、保全及び活用の方向性についてまとめた。※内容については資料参照

●平成27年度末に、資料下部の「天神山保全イメージ図」を住民の方々と作り上げ、平成28年度は、実現可能性を高めるため、庁内関係課との調整を行い、「真崎城跡(天神山) 保全方針(案)」として取りまとめる予定である。平成29年度は宿区自治会の方々へ方針(案)を諮り、最終案を作成したい。

●本ワークショップについては、東海村(仮称)村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会より先行して取り組んでいた。このエリアについては、緑地保全の観点から保全及び活用方法の検討を進めていきたいので、御理解いただきたい。進捗については、東海村(仮称)村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会でも、再度、報告させていただきたいので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

【質疑】

- 環境保全の観点で村と地域が役割分担をして取り組むのは良いことだ。近隣の文化財や健康等、他分野とのつながりについても意識していただきたい。(坪委員)
 - 私もこの取組みに関わっている一人だ。最初は藪だったところが現在では見違えるほど、素敵な場所になっている。一点心配だったのが、近隣に、太陽光パネルを設置するため土地を買収したいという提案があると伺った。緑地保全を進めるのであれば、(天神山に隣接する一体を含め、)村が地権者と話し合いをしていただき、土地の買収等を進めてほしい。(川亦委員)
 - 知り合いが保全活動に関わっているのだが、伐採などについては、ボランティアの域を超えているのではないか。(井坂副委員長)
 - 整備を進めているようだが、地権者との話し合いを蜜にしていきたい。また、石神城跡は村が9割費用を負担し、整備を行っているようだが、倒木が多いところは全く整備していない。真崎城跡について、これだけ村が整備を行うなら、石神城跡もやるべきだ。あれだけの城跡が残っているのは、全国的にも貴重なものなのではないか。担当課は異なるかもしれないが、バランスを考慮してほしい。(川崎敏委員)
- 村全体の問題でもある。頂いた意見を踏まえて検討したい。(関田課長)
- 天神山周辺の保全については、地域の方がどのような形で関わるかが重要になる。保全活動を進めるにあたっては、お力添えをいただきたいので、何卒、よろしくお願い申し上げます。(高橋課長補佐)

⑤-1 (仮称) 歴史と未来の交流館建設事業について (生涯学習課/深見室長)

【説明】

- (仮称)歴史と未来の交流館については、平成31年度末の開館を目指し、活動や整備について計画を策定し、現在は、建物の基本設計を計画している段階だ。
- 場所については、東海消防署に隣接する土地を予定している。こちらに建設することで、文化センター・中央公民館・図書館等との連携強化を図ることができる。
- 日中、自由に訪れることができ集えるような施設にしたい。キッズスペースを設け、子どもを見守りながら、ママたちがお茶をできるようにしたいと考えている。
- 博物館と聞くと、暗くて静かにしなければいけないというイメージを持つ方がいるかもしれないが、本交流館については、大人から子どもまで「見たり・触れたり・体験したり」と楽しめるような施設を目指したい。
- 子ども未来館ゾーンでは、現在の青少年センターの活動を引き継ぎ、自然体験・野外体験・ものづくり体験等を行えるようにしたい。これらの活動については、多くのボランティアに御協力いただいている。そういった方々が、引き続き活動していけるような場所を造りたい。
- 歴史を題材とした内容を子どもたちが学べることはもちろん、科学についても学べるような取組みを実施したい。

⑤-2 「とうかいまるごと博物館」実施事業（生涯学習課／千葉道課長補佐）

- 本事業は、（仮称）歴史と未来の交流館を見据えて取り組むものだ。村全域を館のない博物館と見立て、歴史を体感し、自然に触れあえるような活動を展開する。
- 事業内容については、石神城跡探検や古墳めぐり、ホテル観察会を検討している。例えば、コミセンで「ホテルの不思議」という講座を開催→細浦のホテルの観察→その結果の報告会等、幅広い展開が考えられる。
- 村松地区にも多くの観光資源や史跡が存在するため、地域の方々と協力して取組みたい。

⑤-3 史跡・文化財等管理調査事業（生涯学習課／千葉道課長補佐）

- 村内にある、あらゆる文化財の維持管理・整備・修復を行う。また、昨年、常総市で水害があったが、蔵にあるような古文書等の文化財は災害等が起こると、失われる恐れがある。そういったものの所在等について調査を行う。
- 平成29年度は、石神城跡の遊歩道や堀にある倒木の整備等行う予定だ。真崎浦の船着場整備、また、史跡には樹木が多いので、計画的な伐採が必要だ。野外彫刻の管理やその他諸々の維持管理をし、手法は検討中だが、地域に眠る民具等の所在調査・（必要に応じて）保護を行う。
- これらを（仮称）歴史と未来の交流館の基礎資料とする予定だ。村民の方々と協力して調査する必要がある。こういったつながりを交流館の運営の基盤づくりにもつなげたい。

⑤-4 村花スカシユリ増殖事業（生涯学習課／千葉道課長補佐）

- 村花のスカシユリは、昔は村松海岸で見ることができたが、現在は、日本原子力研究開発機構の一部の敷地内でしか見ることができない。
- 村でもこれまでに増殖に取り組んだが、栽培が難しく、これまで上手くいかなかった経緯がある。
- 事業の目的は、「身近な場所でスカシユリが見ることができるようになること」だ。そのために、スカシユリの生息環境を調査し、増殖に取り組む。中長期的な、チャレンジな取組みとなる。
- ひたちなか市の阿字ヶ浦中学校やひたち海浜公園でもスカシユリの増殖を行っている。そういったところと連携して取り組んでいきたい。

⑤-5 いきいき茨城ゆめ国体ホッケー競技推進事業（生涯学習課／千葉道課長補）

- 平成28年度は、2月末に実行委員会総会を開催し、国体の準備が本格的にスタートしたところだ。広報紙にも国体特設ページを設けて周知を図っている。
- 平成29年度は、おもてなし・広報・輸送・駐車場等、40種類程について方針や計画を定めていく。また、ホッケー競技に馴染みがない方もいるかと思うので、ホッケーのPRを推進したい。さらに、プランターに花を植えて、会場やアクセス道周辺に設置する、「花いっぱい運動」にも着手する。
- 村民の方々の協力がないと、国体の実施は不可能だ。協力体制についても組織化していく。

- 平成30年度には、国体のリハーサル大会として、9月頃に「全日本社会人選手権大会」が予定されている。
- 平成31年度は国体本番だ。ホッケー協議は平成31年9月29日（日）から5日間行われる。会場は、阿漕ヶ浦公園及び東海高校の2箇所だ。
- 笠松運動公園は、開会式及び閉会式の会場となっている。東京オリンピック前年ということで、オリンピックが来る可能性もある。多くの方が東海村に来ることが予想される。

【質疑】

■（仮称）歴史と未来の交流館は、一度、議会から却下されたのではないのか。文化財は東海村にどれほどあるのか。（荒木田委員）

→過去に、資料館や生涯学習センター建設の計画はあり、平成22年に基本計画ができあがったが、東日本大震災があり、計画は一旦中止となった。ただ、旧中央公民館の老朽化や文化センターの駐車場不足の問題もあったので、それらを解消するため、また、（過去に）生涯学習センターで検討されていた機能のうち、今、村にないものを最小限の面積で企画しようということで計画している。博物館機能は、村に現在ない。適切な環境で文化財を管理し、村の歴史を子どもから大人に知ってもらいたいと考えている。単に文化財を並べるだけでなく、それらを通して、村の歴史を学んでもらう。また、青少年育成活動を通して、子どもたちの豊かな感性を育みたい。（深見室長）

→村の出土品として縄文時代の土器等がある。出土した土器を見ると、煮炊きした跡がある。例えば、子どもたちが縄文土器作りを体験して、煮炊きまでやってみるといった、単なる展示施設ではなく、活動に繋がるような取組みをしていきたい。（千葉道課長補佐）

→子どもたちの将来を考えて造ってもらいたい。（荒木田委員）

■私が子どもの頃は、スカシユリやハマナスを見ることができた。現在、ハマザクを管理するボランティアもいる。（仮称）歴史と未来の交流館を造るなら、土を入れて昔の自然景観が鑑賞できるようにしてほしい。（荒木田委員）

→スカシユリは、県内では東海村北部から鹿嶋市辺りまで見られるようだが、村では、海岸部でしか見ることができない。すぐに復活できるものではないが、事業所構内に入らなくても、スカシユリが見ることが出来る環境作りに励みたい。（千葉道課長補佐）

■確認だが、旧中央公民館部分については建物を取り壊し、駐車場になるのか。何台分収容できるのか。（川亦委員）

→お考えのとおりだ。ただ、詳細までは決定していない。文化センターと旧中央公民館の駐車場を一体的に利用できるように整備する。（深見室長）

■説明を聞いた限り、ボランティアに頼る部分が多いと感じる。今、活発にボランティア活動を行っている70代から80代は疲弊している。これからも、有志の方が集まってくる保証はない。ボランティアばかりではなく、仕事にしてほしい。もしくは、県で実施した花いっぱい運動のときのように、展示が終わった花をもらえる等、何らかのインセンティブや低額だとしても賃金が必要だ。ボランティアに全てを任せることに対して危惧感がある。（川亦委員）

→ボランティアの方に全てをお任せするというのではなく、我々も汗をかきながら取り組んでいくつもりだ。役場だけで取り組んでも上手くいかない部分もあるので、そちらについては、御意見を踏まえて検討していきたい。(千葉県課長補佐)

■(仮称)歴史と未来の交流館は様々な拠点となる。対象は村内の住民だろうか。また、人員体制やボランティア、来場者についてはどのように考えているのか。年間の維持費はいくらぐらいだろうか。(井坂副委員長)

→利用者の想定は、村内が多くなるかと思うが、村を知ってもらうことにも繋がるので、村外も対象となると考えている。体制については、基本的には、生涯学習課職員が配置され、運営する。生涯学習課の職員ならば、10名から13名と考えている。また、学芸員等の専門職も必要だ。ボランティアが何人かは未定だ。歴史に造詣がある方や団体にご協力いただくこととなるかと思う。維持費については、今までにない施設なので、仮定となるが、類似施設として、図書館の光熱水費は1,500万円から2,000万円だ。(深見室長)

→補足となるが、文教エリア全体(文化センターや総合体育館、体育館、図書館、中央公民館)の利用者が(延べ)50万人だ。((仮称)歴史と未来の交流館は)文教エリアに来た人が立ち寄ってもらえるような場所としたい。(千葉県課長補佐)

■とうかいまるごと博物館について、すごく良い取り組みだと思う。村松地区の活性化に繋がるといい。“未来”という言葉があるが、明るい魅力を感じてもらうために、科学に親しみやすくなるような切り口で表現していただいたほうが良いかと思う。私自身も真崎の未来を考える会や自治会で、真崎古墳群の整備等お手伝いしている。他(の資源)と連携して楽しみ探しをすることも活性化のひとつとなると考えているので、よろしく願います。(坪委員)

⑥阿漕ヶ浦公園再整備について(都市整備課/横山係長、照沼光主事)

【説明】

- 国体に向けた阿漕ヶ浦公園のホッケー場の人工芝化・老朽化した施設の更新等、計画的に整備を進めるため、都市整備課では「阿漕ヶ浦公園周辺整備基本計画」の策定をしているところだ。
- 整備完成イメージについて、阿漕ヶ浦湖畔を周遊できるような水際園路や歩道橋の整備、眺望に優れた空間づくりを検討している。
- 周辺駐車場については、候補地として《資料①》の「①現在、畑となっている箇所②野球場正面。既存の駐車場の拡張を考えている③既存の碎石敷の駐車場となっている公園入口④阿漕ヶ浦クラブの跡地を活用した候補地」の4箇所を検討している。
- 《資料①》左下に「散策路」とある。東海駅五反田線の用地を活用して、駅周辺や細浦・青畝エリアから公園へのつながりを創出できるような散策路の整備を考えている。
- 公園再整備後は、舟石川近隣公園と同程度のゆとりある広場を設けたい。
- 周辺駐車場については、段階的な整備となるが、最大680台程、駐車可能台数を増やしたい。
- 公園内整備については、ホッケー場の人工芝化、グラウンド出入口スロープ化を先行して工事してきた。

- 阿漕ヶ浦公園は、昭和48年に供用開始して、40年程経過した。村民のみなさまの憩いの場として魅力向上できるよう、再整備計画を作成しているところだ。計画の方針については、《資料②》の上段に7項目を示している。
- 想定可能な整備スケジュールについては、《資料③》の上段に示した。公園内整備を第1期工事から第4期工事に分けている。国体を一つの目安とし、段階的な整備を進めていく。
- 阿漕ヶ浦周辺整備は第1工区から第3工区に分けてある。公園周辺の村道拡幅については、順調に進めば、平成30年度までに用地買収を終え、国体終了後から工事に着手したい。
- 村道の拡幅工事が完了次第、駐車場の整備に取り掛かるスケジュールとなっている。公園へのアクセス道路については、平成33年度に工事に着手したいと考えている。
- 平成29年3月15日に、村道の拡幅や駐車場の整備の想定について、関係地権者を対象に説明会を実施した。出席者からはご理解を示していただき、また、様々なご意見をいただいた。今後も丁寧に説明を行い、ご協力いただきたいと考えている。

【質疑】

■第1回の委員会の際に、阿漕ヶ浦公園内は議論の対象外とするとあったが、本委員会が貢献できるエリアはどの辺りだろうか。(坏委員)

→私の方から補足説明をさせていただきたい。阿漕ヶ浦公園については、平成31年国体開催までに公園として再整備をしなければいけないという事情がある。それに関連するものについては、優先的に取り組んできたところだ。中期的には、国体までに公園内を整備する。また、再整備をするにあたって、そもそも、駐車場の容量が不足する。これについては、平成29年3月15日に地権者に対し説明会を行った。今後、駐車場整備や村道の改良工事を計画的に進めていくこととなる。《資料①》で示した散策路については、五反田線の跡地利用や周辺散策について検討する必要があるかと思う。阿漕ヶ浦湖畔、公園の外側については、土地の所有者がいるところなので、地権者等に対する説明会が必要だ。また、駐車場については、地権者がいらっしゃるのので、できるできないはあるが、段階的に整備可能なエリアを“候補地”として選定させていただいたところだ。現在、検討していただいている村松地区周辺の活性化でも関係するが、公園再整備にも関係する。はっきりした線引きはできないが、せっかくの会議なので、いただいたご意見について、反映できるものについては反映したい。

(大友課長補佐)

→承知した。将来的には、国道245号の東側についても計画がある。道路計画等、総合的に捉えないといけないと考えた。もう一点、メインの公園の入口と出口が交錯している。将来計画にも関わるかと思うが、動線を分ける必要があるのではないか。(坏委員)

→仰るとおり、現在の使われ方として、歩行者・駐車場・抜け道利用が錯綜している。こちらについては、安全面の配慮をする計画になっている。また、公園に繋がる道として、村松3115線から来る道路が狭い。家が建っているのので、どこまでできるかの問題があるが、当面は245号から入る道をしっかり整備する。(大友課長補佐)

→まだ意見を言う余地があると考えてよろしいか。(坏委員)

→平成31年国体に向けての整備は決まっているが、それ以降については、村の整備とのタイミングが合えば、ご意見を参考にさせていただきたい。(大友課長補佐)

■イベント時等に阿漕ヶ浦公園を利用すると、トイレがいつも混雑している。今回の再整備に伴って、トイレを増やす予定はないのか。(鈴木千委員)

→既存のトイレは、入口付近と野球場の隣の2箇所にあるが、今回の再整備に伴うトイレの増設予定は今のところない。(横山係長)

■阿漕ヶ浦湖畔は1周どのくらいか。(鈴木さ委員)

→《資料①》で想定しているコースだと、おおよそ1周あたり1,800mだ。あくまで図面上だが、歩道橋を渡って半分だと800mほどを想定している。(照沼光主事)

→今、想定している遊歩道は歩いて回れるということによろしいか。駐車場が《資料③》の緑のところならば、そこが拠点となる。せつかく、国道245号が近いのだから、そこを単なる駐車場にしてしまってもったいない。本委員会では、「ここで湖畔を眺望する」という意見や「ここにカフェやお土産を販売するところがあると良い」との意見も多数あった。また、一人で歩くのは怖い。人目があつた方がいい。駐車場だけでなく、人が来てお金を落とすような施設が真ん中にあると行きやすくなる。そちらについてもご検討いただきたい。(鈴木さ委員)

議題(2) その他(事務局より)

- ・次回委員会日程調整について事務局より周知

4 閉会(関田企画経営課長)

(以上)